

# Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより

第216号

## ななえ古写真物語

VOL.216

### 謎の樽屋

富樫桶樽製造業

大正13年ごろ

本町地区か？



Nanae Historical  
Museum Collection

長らく存在はわかっていたものの、七飯の景色かどうか分からない写真がある。それが「富樫桶樽製造業」という資料名で登録されている上の写真になります。

当館ができるより、はるか昔に収集されたもののなのですが、来歴も収集年すら記載されていません。ただ大正13年頃に撮影されたことが記されているのみでした。

屋根に厚く雪が積もっている軒先には、資料名にもなっている「富樫桶樽製造業」の看板。そして店の前には、大人の背丈よりも大きな径をもつ樽が、3つ並べられて、その右側には、蓋と思われる半円状に組まれたものが並び、おそらく「富」の字をデザイン化した模様の法被を纏った男たち（職人なのだろう）と、幼い子どもが写っています。

店前に積った雪には、車輪の跡が見られるので、馬車か大八車でも通れるくらいの道なのでしょう。いずれにせよ、この景色だけでは、七飯町のどこに相当するのか判別はむずかしい。

大正5年発行の『七飯村史』には、富樫桶樽製造業の文言を見つけることができませんでしたが、昭和51年発行の『七飯町史』に、樽おけ製作所として畠山樽桶製作所の名前が記されていました。とはいえ、記されているだけで、その詳細は書かれておらず、しかも店名が異なるので、その後の調査を断念していました。

それから、幾年も過ぎたのですが、偶然にも町史に記されていた畠山樽桶製作所について、詳細を知る機会がありました。それは、昭和59年に七飯町教育委員会発行の「ななえ教育ニュース」の訪問シリーズ「古老をたずねて」というコーナーで、実際に樽を製作していた畠山鉄太郎氏のインタビューです。

畠山氏によると、大正13年（14才の時）から青森の桶屋に奉公し、昭和6年に函館に渡り、縁があって七飯町内の桶屋で働かせてもらったといいます。この桶屋は、現在の七飯本町の国道5号沿いにあったと考えられます。そして、その桶屋が引き上げた後は、店を引き継いでいたそうですが、昭和8年に現在の本町郵便局の向かい側に「畠山桶製作所」を開いたと語っています。その店は、昭和32年発行の「七飯町市街地案内図」でも確認できます。

以上のことから、もしかしたら、富樫桶樽製造業は、畠山氏が引き継いだ店だった可能性が浮上しました。とはいえ、不確定要素が多いので、調査は継続しなくてはならないし、記録もしなくてはなりません。もし詳細を知りたい方であれば、ご教示いただければ嬉しい限りです。

それにしても、いったいこれほど大きな樽は、何に使うのか気になります。樽屋が町から姿を消した今、このような風景を見ることができなくなったのは残念でなりません。

## 12日 野草園整備

4月から始まったボランティアによる野草園整備は、11月が最終月。こも巻や落ち葉の片づけなど、丁寧に作業を進めてくれました。野草園は、第一から第三まであり、官園時代に育成していた草木を中心に、春から晩秋まで咲く花々を見ることができます。今年からは、表示板も新調しました。酷暑の頃も、風が強い初冬も、整備していただき、感謝申し上げます。また、例年、育てた植物からできた、タネのいくつかを配布しております。準備が出来次第、少量ですが、館内に置きますのでどうぞお楽しみに。



## 29日 ジュニア探検クラブ

石器づくりに挑戦しました。講師は、今金町教育委員会の学芸員、宮本雅通さんをお迎えしました。宮本さんは石器づくりのスペシャリスト。今回は黒曜石をつかい、矢じりを作りました。「石器の器は、うつわではなく、利器のことです。」と言うと、子どもたちは驚きます。また石を剥がすには、80度という角度が大事と伝えると、むずかしい・・・の声。それでも根気強く頑張りました。作った石器を、透かして見る良い笑顔に出会えた時間でした。



特別展を開催中です。

11月28日から開催しております「聖山-seizan-」では、考古学が好きなひと、そうではないひと、楽しんでもらえるように、なるべく専門用語を避けて、解説をしています。聖山式土器の文様の特徴をわかりやすくする展開写真、在野研究者の目録なども見どころです。聖山式土器以外の晩期の土器も多く展示しています。大きさや形、独特な把手など、それぞれの視点で自由に見てください。来年2月15日までの開催となります。ぜひ足をお運び下さい。



## 1月の予定

1	木	年末年始休館日	
2	金		
3	土		
4	日	特別展「聖山」開催中	
5	月	休館日	
6	火		
7	水		
8	木		
9	金		
10	土		
11	日		
12	月	成人の日	
13	火	休館日	
14	水		
15	木	夜の博物館第2夜	
16	金		
17	土		
18	日		
19	月	休館日	
20	火	ピチャリ第217号発行	
21	水		
22	木		
23	金		
24	土	ジュニア探検クラブ	
25	日		
26	月	休館日	
27	火		
28	水		
29	木		
30	金		
31	土		

※休館日：1～3日,5日,13日,19日,26日

こもづつ(こもつち・つつのこ)

たを米貯  
で縄は  
品み  
部の編  
の「包  
器する  
みにこ  
編縄に  
俵てま  
や蔵



## 編集後記 ～tawagoto～

今年も多くのご来館に感謝申し上げます。展示内容に合わせて、資料や図書を寄贈された方や標本制作の知識を教えてくれた方、展示の評価を伝えてくれた方、ありがとうございます。翻ってトイレ利用だけの目的の来館も増え、そのマナーに苦慮することもあります。一日の間でも、一年の間でも喜びやそうでないことがあざなえる縄のごとし。来年もまた、今まで以上に日々の管理と新しい「眼」をもって、博物館活動に専念をして参ります。

Pichari ~ピチャリ~  
第216号

第216号

令和7年（2025年）12月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp